



特別  
ル4  
3770  
5



門 凡 4  
3770

昭和二十六年二月十三日

京極天皇御遺蹟五月録

古帝陵 一月

皇居陵 六月

皇子陵 十月

公卿塔 十二月

武將塔 十四日

勇士塔 十九日

秋茂塔 八月

歌人塔 四月

高女塔

成七十月

藝名塔

甲二十日

雜塚

四十九日

京相璠漢書卷五十四

京相璠漢書卷五十四

古帝陵

天智天皇陵

山科市新野

とみみまき村と云は村の氏家  
十六名として陵と云ふまわ  
るに竹鼻氏此家いし一  
論別并り孫起亦今に不  
持せり

桓武天皇陵

田代市南

よわわと云ふと云ふ今  
陵此方より相違せり昔  
那檀原に陵構れり今  
は

嵯峨天皇陵

河内郡藤原の  
池西に在り

堂にあり又...  
天台目浄后檀越皇太后恒寂法  
原此塔三基一不又あり恒寂法  
原ハ淳和天皇の御子少く...  
是の祖かむ世人は塔と云  
院 大光の塔と云

淳和天皇陵

傳云兼和七月  
五月八日高市

造勅小下りて山塚乙訓郡和菜  
妙村火葬一なる浄骨ハ大

仁徳天皇陵

深草安永山  
又あり又山科の

文徳天皇陵

四邑の郷あり  
け有田むら

みかど...  
と云...  
今ハ下田宮

淳和天皇陵

志賀山あり  
あり尾村あり

は左小水尾の帝と云...  
い...  
骨とあり尾山に納...  
云...  
淵ありて始...  
ま...  
ち村に移...  
入...  
光孝天皇陵

光孝天皇陵

仁和寺北西田間  
あり今太夫

東山小松...  
...  
に陵あり...  
仲の山...  
後...

室女天皇陵 仁如寺北山宮  
中にあわはゆふ

室女殿の院と号し一寺あり

醍醐天皇陵 杖素略記廿四巻  
云云元永四年四月

十七日高御神示是れ赤毛の山に  
ひりちまると今れ其掘樹院に  
かり今切んがらんいに古跡あり  
その後又醍醐の葬りもなりや  
たに山東北の麓に陵今切んがらん  
傳云 天皇の外祖母母孫益三  
史ぬれある事と云ふひあひ遺物  
一命してけ下に陵と云ふ事あり

朱雀院陵 下の醍醐陵村に  
あり別院性院の

村上天皇陵 下れたいにあり

多融院陵 傳云仁如寺の内  
多融院ありと

今多融院下さうりなり一院云け京  
中聖林院北南にありと榮花和  
漢よ 多融院ひりあきせに苑せと  
ありさき前院た大庭院編記  
幕れ心ありあまを病ありさ  
け第の雲の切るとありひさやまの  
界りまにあてらん今にばあにう時  
まは京中に陵ありさきありんり  
台まんの

花山院陵 山科元寺にあり  
まへにあり世人

一條院陵 傳云 一條院  
三条院石氣に葬

石あり人けんと謂ときひかなり  
崇ありと榮花和漢よる氣に西園

寺北東小北中ありに安永今此  
殿苑寺北地あり(西園寺此旧  
地あり是にふる時大石二陵の  
ありしあり事必せり

後冷泉院陵 船尾山北麓  
よありし

三條院陵 傳云かろし皇に  
火葬せり

保中初云資經御骨と宮陵  
よ細ありとありはと今その下  
たりかろしと

白川院陵 大佛蓮花玉院  
の東は行院あり

けふあり(北法行院の北あり每  
この月十三日は氣開帳あり又  
山科郷東中村白川寺に陵あり  
北は川流陵ありと物並ともそり  
實不詳

鳥羽院陵 竹田安永寺院  
よあり

崇徳天皇廟 東山眞性院あり  
頼勝古井

二條院陵 丹波山北麓あり  
よあり

陵のたに五寺の石塔ありと  
北村体は九輪とありて  
塔も今大徳寺新光院あり  
ありし餘は系直し北は山北麓に  
用ひしとぞい出宗つと依て  
利休終とくせと

三友院陵 東山法興寺あり  
宸氣よ御賢

わりのけ寺北村ありに今  
なきとん此をそり竹の坊あり

後鳥羽院陵

山崎のり、後伏見あり

明徳院此神製續古今事に

伝ち相院此遠劫よりしては寄

と大原山より知しん元より洋

土御門院陵

山崎乙訓郡金原にあり

号と知し今も元は此より也

日條院陵

東山泉涌きま

後深草院陵

山崎の山蓮花家寺のや上にあつ

け而土倉を身は石像ありし世に

立神がとけく長も山はよも

あわをたまきうく後深草院帝は

陵ころも事必せりいしもの

ありり石ふ動ると安玉で

伏見院陵

伏見新町一町目

氏家丸表にあり

後伏見院陵

旧記云山崎山にあり

ありと云ふ事洋

後二條院陵

右同前あり

是又分のあり

花園院陵

妙心寺玉鳳院あり

又梅津の東萩原に一推し

土蔵王首空く云按じ

花園の院は世に変化とあり

多しとせ所は陵と築あり

け陵萩原にありて王墓と

伝はハ竹毛花園帝の陵あり

るゆりきう又は京を過き

祖月林初尚と中御孫あり

宸養と尚寺にり初あり

ケ不のまのりふえー

光嚴院陵

後醍醐天皇の御陵  
金剛院にあり

後醍醐天皇の御陵

同天徳寺あり  
西寶院にあり

傳云坐の村院より氏公 後醍醐天皇  
追善爲のたぬに天徳寺と建立す  
け院と塔とあり

後醍醐天皇の御陵

泉涌寺にあり  
宝徳院にあり

後醍醐天皇の御陵

右同院にあり

後醍醐天皇の御陵

右同院にあり

後醍醐天皇の御陵

右同院にあり

後醍醐天皇の御陵

金剛院にあり  
あり元泉涌寺

此末のりて悲心田院に地あり  
一也 後醍醐天皇の御陵に在り仁の地と云

ひのひは是利家宮内司の尊に  
佛なり世に直にして  
漸にわね時泉涌寺に火乃  
ために焼失す悲心田院に宮内  
此寺に在り後醍醐天皇の御陵  
に葬りしをゆりてを世に泉涌  
泉涌寺にありぬりちまきと云  
有りと云はる

後醍醐天皇の御陵

泉涌寺にあり

後醍醐天皇の御陵

右同院にあり

正親町院陵

同あり

後醍醐天皇の御陵

同あり

後醍醐天皇の御陵

同あり



水尾院陵 ひみつのしのみゆり 口の

皇太后陵 こうごうがう

長長陵 ちやうちやう 山城乙訓郡長長山

乃中后にして曰大長良継の娘か  
つし七年漏乃陵と号す

大長陵 おほなちやう 徳武天皇其夫人  
從三位敏女乃懷ハ

いふ一梅津村にありと今も  
一ふさぶきとて松乃尾下尚ク

田原に一堆塚あり大長乃塚と云  
ふ是れあり一は敏女乃塚なり

宇治山陵 うぢのさんかみ 宇治にあり神正位  
王女其墓にして

是又八墓れよりなり皇氏講也

那子 桓武天皇の孫武敏の仲  
親此陵あり 光孝ニ帝崩於の

時幼て為中饋一産 此乃又帝ヲ  
後乃皇女なりと云ふ

宇治山陵 うぢのさんかみ 宇治にあり 齋院  
の母女女子此陵に

右大長乃御輔公此女に村上  
帝位ふにありと一特后にゆり

次泉院と号すあり天徳二ノ  
十月申文とあり

今宇治陵 いまうぢ 宇治にあり  
後三条院の白

禱ハ茂子此陵あり 白河院乃  
神母后ありて後大長乃長良

位公此にありあり

後宇治陵 のちうぢ 宇治にあり  
長良子此陵あり

深川院此の宮にて 名は深川  
壽の御孫大政大臣友實の妻  
の女なり

鳥居院 名は中にある  
鳥居院此の宮

詮子ありて東三條と号す  
一多院沖母公あり又東中山間  
大如堂此の山に陵あり

新津堂 竹田安永寺院小  
あり

八條此の院に陵あり義福

眞陽院 院此の南宮  
院にあり

は院ハ 後白河院の宮にありて  
ころ又此の院沖にあり

嘉陽院 太秦此の西安井  
村新綱寺の田

地にあり諱ハ禪子 此の院

の妃ありて世々後代に女あり  
古け名をいふ院あり

建礼院 院此の南宮  
院にあり

門院ハ 高倉院の宮にありて  
安徳天皇の御孫平相國の宮に

入道淨海の宮にあり

小野山陵 市京常秀寺  
あり

の宮にありて此の陵に常秀の  
今ハ名を常秀寺と号す

式部内親王塔 系極西園寺に  
南大願寺に

ありて寺ありハ十中庵寺の  
一寺ありて此の所より今此の

天皇の地ありて一親善寺此  
あり



妙吉祥院塔 大徳寺法光院あり 後陽成院

此皇子好仁親王の姫君にして 後西院の女御なり 母藤原 英大夫人と号す

淨法身院塔 寺所感字にあり 聖徳太子の

先的心院塔 故水尾院の御女に 東福寺海鏡院

後水尾院才二の姫とありて 近傍尚副公の室なり

菩提心院塔 寺所通字にあり 今白付の御あり 且今白付 御息女あり 妙法院

親王の資才弟五才二の御母 公かたり

仙臺院塔 石山山北あり 其女寺にあり

寶篋尼寺一代久の御母とありて 故水尾院才六の御 女あり

女二の文塔 石山先王にあり 妙法院

と号す 故寺の御母の御母とあり 此御母とあり 妙法院

積光院香灯の資料あり 積光院あり 積光院あり

東福院の御女ありて 妙白屋 号す 衣の像はあり

白子女陵

白塔寺

山城久世郡田原

光仁天皇の御陵あり

惟喬親王陵

大原上野と編の東北あり

光 文徳天皇の御陵あり

一本松と云

三の松

大徳寺法華堂のあり

親王あり

後陽成院の御陵あり

法親王眞深塔

法金剛院のあり

後陽成院の御陵あり

法親王良純塔

泉涌寺のあり

後陽成院の御陵あり

法親王光純塔

大徳寺法華堂のあり

大徳寺法華堂のあり

法親王光純塔

東山智恵堂のあり

後水尾院の御陵あり

法親王任勅塔

法金剛院のあり

伏見天皇の御陵あり

西

法親王道寛塔 白川昭三流の  
山中にあり

聖護院一代の浄土にあり

法親王道善塔 下栗田山  
幸ふさるれ地

あり高金のえん仁親の  
三へりて安井門にあり

祖あり

梶井門主塔 大徳寺  
あり

樂山作經と号す

法親王道澄塔 白川山上あり

は外門より道夏塔同にあり  
二門よりくに照高院前  
乃浄門あり

元澄院塔 般舟院あり

後水尾院中三女あり

正源院塔 白院あり

後西院中一れあり

公琳塔

橘瑞光塔 山城井あり  
観音寺の内

は不い中へ瑞光公宅地あり  
今よ泉ふれにあり塔二川  
あり供と瑞光公夫婦の塔と

敦原良房塔 東山蓮花王院  
の東竹林の中

よあり是忠仁公あり

敦原時忠塔 田代志家  
ありと接する

あまの山持現る下め公宅岩部  
誓々器れ小ま法丹へ今に  
いりへの石門の辺沙まり秋  
烈後天怒るるに昔神那  
子白山み極まると今も神号  
なりいりてお宅山持現と  
稱も今れあまの山をわ時平  
歸ハ定結る中れ今もて魂  
ハ持現會ま今のあまの山  
さうああり物う時ハ時平の  
塔回れあまの地とあり事必  
せり迦世今乃あまの堂乃  
くさの塔と時平乃塔と  
ハ大キから極つは二流の月乃  
論ハ時平歸乃塔ありと云  
昭宣公其終る塔の跡とありと  
迦世寺云地終村と云

大倉寺と号れ

浄堂用白塔

石門寺にあり  
是有系を造

南院之副辨塔

空法よりわ

小野毛人墓

高津川の小蓮  
花まれ西南の

とありけ地の民人けよと通  
ひきりあまの山と極つと云  
よ石棺の内よ金剛一物あり  
表のま付よ絶る澤津原の  
慈治天下天皇乃帝躬任太  
政官の兼刑部大辨位又綿  
この文字あり裏よ小野毛人  
名は乃墓也号月日れま  
あり大まに敬して令牌い  
中村法幢と納石極り

こころいふ又憎しあり

橘後細部塔 伏見御園寺の  
小部成範院より

わりの洛の五下物通の  
あて橘の後遠の實子にけ  
人發ののりて山を伏  
見は者者三号とて別成範院

建立乃人かり

法尔其地塔 双林寺山内一の  
この塔ありま

次と二の是二乃是と云  
むくかむびの是と云

舟橋法尔塔 下保濟天竺寺  
の未の寶塔あり

乃内法尔寺人利業の社あり  
今橋乃文と云をり法尔代  
の塔はありあり毎の四月十五日

法尔未爾利業の社今山内

迎禪殿塔 東福寺海法院  
あり

日見女乃塔あり

花忠李朝塔 鳴瀨村妙音  
あり

智花花山院慶流二品内  
師徒么南約は二且も男右  
わね忠李と名ひあひ退ま  
力の小仁をまは東金基と云  
て妙光の寺わを忠李あり

あり名妙光と号せりいふ  
忠李婦乃今中二品内村  
信么父の命はとてひては  
法灯法師と号して南と云

九条道家公塔 泉涌寺後  
山光の塔あり



道家公薨去乃目達をに徳  
せして火葬しけしふ十三子の  
塔と建五一びちやうん天乃  
像と中さうつ達尊と塔の  
下に納む徳仁の多礼とまき  
燦失せりあうねごとく今に  
アとて自法門堂谷と中さう  
ハ今東福寺常寂庵の園と  
烏丸光彦歸塔 大巻法重  
法中虎養翁山公と号と息  
野光賢の目息資慶歸の  
塔つてまじは寺にあり

長將塔

六孫王基廟 東寺北西  
門云々の廟社をさうりは不  
一へ法成代々の宮地あり

作爲義塔 七条本願寺  
堂祇陀林寺  
の兼竹林の中あり又為義  
初息乙若丸也の丸や塔の  
天々丸四人の墓、船屋山  
り保元の礼とてはあひて  
りしぬさしはまふさうりあひ

源頼光塔 船屋山北南田の中  
寺れ内ふさう境の河橋の  
塔ありとてまじは法とまじは  
坂上南村塔 勸修寺北山  
名法安塔 保徳寺中元  
又二流二名登山

の地と端は是よりまじは  
の地と端は是よりまじは

ありもほほ望まわらむと推察  
のひびきありと云ふ人云はく  
つし案あり清登洋海八流  
兼其の潤二月四日洛東宮殿  
羅布て薨る歟實法眼遠  
影と着るけけの國境のつよ  
納と云ふはけけのあやまのつ  
へらなると

新田義貞塔 信長新田義貞  
のむすむすの

内侍河原清盛生所のまこと  
徳久うららむと小園我死のほ  
とありけけのまふの洛と建  
と今もまふとあり

足利義満塔 洛西の塔なり

延文二年四月廿九日征夷大将軍  
二位前権大納言薨るまふと云ふ世  
奉法名等物院殿妙義と号す

同義我孫子塔 曰院あり

貞治元年二月七日征夷大将軍  
正二位前権大納言薨るまふと  
八流世と云ふまふと云ふ世  
院道權と号すけけ系部  
軍家十五代の塔并に東家  
の塔は院あり

同義我孫子塔 相国寺の内蔵  
院あり

應永十五年五月六日征夷大将  
將軍大政大臣從一位准三之  
薨るまふと云ふ世四十二年法名  
麻苑院ありと号す

同義我孫子塔 相国寺勝堂院  
あり

三十七年四月十八日征夷大将

平俊一位内大臣薨るるの四十三  
治世廿一年法名勝定院乃依

同義景墓塔 相國寺菩提院  
よわわ

夜永世二の二月廿七日薨るる年  
十九在職二の五相公御治世四内  
法名道基と号す

同義教墓塔 相國寺菩提院  
よわわ

嘉吉入の六月廿四日薨るる治世  
十四の法名勇慶院乃依

同義勝墓塔 同寺菩提院  
よわわ

嘉吉三年七月廿日征夷大将軍  
左近衛中將の十歳薨るるに  
薨るる法名道基と号す

同義政墓塔 相國寺菩提院  
よわわ

延徳二の三月七日征夷大将軍  
左大臣位一位准三三薨るる年  
九十六治世四十九の法名慈照  
院道成と号す

同義尚墓塔 相國寺菩提院  
よわわ

延徳入の三月廿六日征夷大将軍  
一位内大臣位初納の里軍中  
一薨るるの廿五歳一あり年十七  
年義政公治世の内なりは義  
照公の法名常徳院道徳院

同義親墓塔 同寺菩提院  
よわわ

延徳入の三月七日入道天約三年  
まの年三法名大智院道徳  
と号す親の字又新

同義院墓塔 相國寺菩提院  
よわわ

大永三年四月九日前約年11列  
檀越一重亮とて五月十八任職十  
四の惠林院はくみん所業と号とて

同義晴之塔

同寺方松院  
あり

大永十九年五月四日并任美大和  
軍大納言兼右近衛大納言  
大山小蒙とて年四十治世三十九法  
名方松院道照と号とて

同義我輝之塔

同寺光徳院  
あり

永源公の五月十九有義元年世  
は名光徳院道照と号とて治  
世十六年

同義嗣之塔

同寺林光院  
あり

應永二十五年五月は二位権納言  
薨とて法名依院と号とて  
為院とてあはれ系にあり  
寺へいせり

同義昭之塔

同寺常徳院  
あり

永長二年八月廿八日卒とて  
六十一法名靈陽院道徳と号とて  
常徳院の寮舎  
貴依和とて昭公の塔市に  
たましんとては約辨仁  
の事おこりて後とて

織田信長之塔

同寺  
あり

信長公本願寺にて殺害の極  
自身和尚遺骸とていふてあり  
り細くあり也

▲織田信長の息男織田信勝の助  
信忠公の塔に我死百武拾人

の塔当寺あり

▲又豊后長門秀吉公信長公退蔵の  
ために惣入院と大徳寺を創り  
建之し寺領と稱したるは信之  
信長公塔并に惣入院日息男信忠  
日今才位権正公織田一丸の  
塔当院ありあり

▲織田の樂一家の塔建仁寺清  
和寺ありあり

▲織田大内塔系山安堂寺長門  
保登にありあり有樂の子にて  
信長公沖源あり

武田信玄塔 妙心寺玉成院  
ありあり

信玄息男勝頼塔勝頼子代勝  
塔ありあり院ありあり

豊后長門秀吉塔 東山念佛乃  
南の方あり

國泰院俊成院ありと号は乃  
塔あり山の上にあたりあり

▲葉君北沖墓妙心寺僧堂の茶  
しありあり長秀吉公の息男にて

秀頼公の墓京極並言れありあり

▲長秀頼公の幼子あり漏世院  
雲山智西と号ありあり

▲有長秀次公墓本山ありあり  
ありありと号ありあり高嶺道と

▲二位下墓同寺にありあり秀次  
公の父ありと健性院日海ありあり

▲大和入納公秀長公日息男秀  
俊公塔本願寺の内大光院あり

▲丹波かむ秀勝塔本山ありあり  
秀次公才之先徳院ありあり

勇士塔

平家一族塔

平家一族塔 蓮花塔にあり

妻永く申事家西海にあり  
ぬき妻女尼と申れば小名所尾  
よく申亡妻のふに塔と云遊  
ありぬくは海客の寄りし梅の尾  
ゆき上人の海客に下には  
くく今石塔は安らぬあり聖  
頼りくくか文はまきまき  
七支のくめに去りまき下  
巖後を弟あり今梅の尾  
系より初じおのまきくは  
ク名あり女道よりまきまき  
人のとよぶまきいあり

平判官恭親塔

始は文徳天皇  
の並にあり

外川の石地多とて平判官  
ぬき墓とて入る地多とて  
大和軍の社のほぬきまき  
か申よりけりし恭親の宅地  
つしこく又東山双林寺に塔あり性  
照に号すと鬼馬が塔あり  
は取めて養老塔と云  
愚七多景法塔 八幡堂曲の  
佛を急はげして煉乳  
八幡堂清とてぬき殺  
ひしにわれを志と不  
ありあのものまきまき  
まきまき塔

山口時札入道塔

後醍醐天皇の御あり  
乃益月院ありあり

平重衡塔 山崎本はの西と  
は村をなす位

乃中物を衡錡はふりて斬死  
は右に塔とけふに建ぬ又寺とた  
て哀堂と云迄世安福寺あり  
たむけ寺に重衡の金像あり  
ぼく塔は未ありは六十の昔  
の案に焼失と云ふ又宇治郡  
日中系岡の中に重衡の塔あり  
は錡のてか大初云のら世とのれ  
日中系岡のてか大初云のら世とのれ  
を錡のてか大初云のら世とのれ  
のてか大初云のら世とのれ  
のてか大初云のら世とのれ

須光利義後通塔 三条白河橋  
の西南系

乃後通のてか大初云のら世とのれ  
を錡のてか大初云のら世とのれ  
のてか大初云のら世とのれ  
のてか大初云のら世とのれ  
のてか大初云のら世とのれ

細川勝元塔 あり弟を建三  
あり弟を建三

大檀越と云妙心寺大心院三勝元  
日政えの塔あり

細川光家塔 一家の塔  
院の内にあり

細川持光塔 天竺寺性智院  
あり弟を建三

日持之塔 日寺弘源院を  
あり弟を建三

日比元塔 日寺弘源院を  
あり弟を建三

日持之塔 日寺弘源院を  
あり弟を建三

山名氏法塔 山名氏法塔  
あり弟を建三

〆分右氏信内野より系死相國  
 刻國云乃とあるに我死して一具か  
 流きとかなるさへはむわしと云ふ  
 武勇人今と云ふもさるるさるるは  
 て又故公氏信の首と云ふ三好氏  
 にとては軍士にあらめはな  
 と云ふ又内中にて一宮の堂と云ふ  
 しては花方部は依養精  
 續あり今の終堂の地と云ふ  
**寺中氏塔** 深草山にあり

織田信長公と足利義昭公との争  
 争うて合戦の時と云ふ氏信と云ふ  
 云ふ云へて我死の人とは今も塔  
 系守村の人と云ふ之塔とは不建几  
**三好修理人寺塔**  
 大徳寺の内聚光院より

**穴山梅雲塔** 穴山は西南  
 織田信長公の塔と云ふ事あり  
 あり時梅雲といふ事あり  
 云ふにわさるる塔と云ふは  
 あり系守村の人の塔と云ふは  
 塔は信長公の塔と云ふ事あり  
 三好氏の塔と云ふ事あり  
 賢寺塔と云ふ梅雲と云ふ事あり  
 乃西の郷と云ふ事あり  
 大方の根つと云ふ事あり  
 云ふ事あり村氏塔と云ふ事あり  
 云ふ事あり内村の西の方に  
**明智自覚光秀塔** 下栗田谷川  
 町合家の内  
 云ふは西に川あり事あり内川と云ふ  
**寺中氏塔** 系守山にあり



心算目向ちるえ秀の家長つて  
山崎然のり手えはあて自害  
南寺北の東陽坊の仲免殿と  
はあつたひりあつた秀吉公ま  
塚とららひりあつた下栗田  
さしあつた後東陽坊ひそ  
又さつたさつたさつたさつた  
一の葬りあつたさつた

### 松伏波も康之塔

南禅寺聴松院よりわ娘の名新  
知山林西の屋の人ありあつた  
先は松院交難とに往へ後へ柳  
此後より松院よりわつた文武の  
人いふさつたさつた時の人多人  
波と松と

### 石田林也徳成塔

大徳寺の内三雲院よりわの東院  
と号して刑死の故は院よりわ  
又妙坐塔乳を昌院より塔と

### 金吾中納言本秋塔

女園寺の内三雲院よりわは名  
と号して殿月詮と号しては院より  
石の手願と施せり

### 本下肥後守家塔

法東高直寺よりわは院よりわ  
の叔父より新築して二位のは下  
と号しては院よりわは院よりわ

### 小早川隆景塔

大徳寺よりわ梅院よりわ毛利元就  
のよよりして毛利家の執事よりわ  
後并筑は西に領よりして往



大友宗麟塔

大徳寺のうら

其後の國にありては家系今断絶と

松永道正の人秀塔

中園寺にあり

彈正人秀の人の國を同の地を  
ありて本園寺の大檀那として今  
の境地にありて彈正道正の塔

徳光院の玄心塔

徳光院にあり

本園にありては徳光院の  
時五重の塔にして徳光院の  
徳目代にありては徳光院の

妙心寺の玄心塔

妙心寺にあり

此の塔は徳光院の塔にして徳光院の  
此の塔は徳光院の塔にして徳光院の

因幡の山中にありては徳光院の  
ありては徳光院の塔にして徳光院の  
ありては徳光院の塔にして徳光院の  
ありては徳光院の塔にして徳光院の  
ありては徳光院の塔にして徳光院の  
ありては徳光院の塔にして徳光院の  
ありては徳光院の塔にして徳光院の  
ありては徳光院の塔にして徳光院の

道白の信仍塔

信仍塔にあり

世人をよぶ徳光院の人のありては徳光院の  
此の塔は徳光院の塔にして徳光院の

福徳の玄心塔

妙心寺の海福院にあり



妙心寺の南支那流よりゆきこぞ

毛利惣一塔 大徳寺塔

長門國防の大徳寺あり天徳院

宗徳二塔

松平忠房塔 大徳寺塔

然のち近道より大和松平順

忠に流るのち松平忠房

はく金にのちのち領地とせわ

せりておまきりて

ありておまきりて

尾州亞相又直卿の令兄あり

薩摩の忠言塔 あり

小笠原監物塔 あり

尾州無相又直卿

目懸胸の令あり

女内侍墓あり

童あり

のちのち

今川氏貞塔 あり

備前守輝塔 あり

大徳寺塔

真徳院

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

沈村入道助塔 日寺にあり

細川頼朝中書忠貞入道三母にあり  
久日頼朝中書忠利日肥後守免利  
よりわけて頼朝の戦功ありき  
名世にわたり

天野守助塔 日寺にあり

えまののまのふりあわむる中  
頼朝頼朝の役は松会堂にあり  
よ属してふかむる切あり  
ま後花を初に松事あり

松会堂の勝王塔 南禅寺の西

寺にあり寛永年中に頼朝の西司  
より死後頼朝の院に勝王塔を  
よと日同所より宗の塔に日寺に  
ありは勝王の息男ありは勝王  
のほ松会堂院と号すとお徳とく

京都の西司とあり

末持安智塔 南禅寺の西

丹後文治の塔にあり丹後  
と号すとありわけては末持安智村  
より居たり死はけ下り葬あり

釈氏塔

阿彌多者塔 梅畑妙尼寺

よる山寺に流下りありの處に文徳化  
二十三年のには建立すも紀念塔  
歌刻あり他は云の頼朝者人トめて  
比丘尼と交りけあり元寺に阿彌の  
塔と建し是大乗供ありは文珠  
塔とたて比丘某の院に寶頭盧  
の塔と立あり



寺のありて今にゆかり西条河門  
松平寺并和のひやうえんとたかく竹  
村は宗も代用なり車定登上  
人の電でも麻とてころせりけり  
又山科東村三々々の多しは人れ  
塔わりのつとよ人けり高堂とて  
達立しと後けり下り九月十日に  
徳化もと久安の中終りて天和  
の系松大雲院のあり性長豊  
ちは再興し定堂と建せり  
文覚上人塔 高橋山神護寺  
山の上あり

の恵上人塔 梅尾なる山寺  
徳堂院は山寺

日老母の塔日下河原村飲新築  
あり梅系に記伊の承陽浅郡  
ゆふ上人の古なり上人飲新築  
徳堂母の塔と建て下飲新築  
の早もりく飲新築にりりりりり

恵心僧都塔 比叡山横川  
阿もてり新築あり

源真上人塔 西山新築あり  
あり

善恵上人塔 大日寺にあり  
十七歳あり

上人の西山流の祖ありて志づく  
は不し位とて又作去まんたれ  
新築十巻と選述とて

法苑上人塔 法苑なる院に  
碑に記あり

ソとて文字減して讀ぐ一説  
流ハ宋此景瀛り作るり又粟  
生光の寺に塔ありりりりり



人の骨灰と初法石也又玉名山  
あり也世塔のとい一寺の堂と建  
立一不教念佛れ道場と云又  
大智智恩院と塔あり

敏法師塔

東寺れ西田川  
中にありは不

いあり西寺の旧跡ありと説き  
敏墓は大和の橘生山ありと

目蓮上人塔

ひえいん 樺生念  
定光院あり

一に也世妙是まこれゆと物まこと  
又志飛実相寺にあり凡宗門ま  
と人れ塔ありありと云とけ  
ちの塔昔也とまて

目像上人塔

鷲冠井立仲寺  
にあり又云くさ

宝塔寺よあり像像 京都十  
とく不れ頼目の無とあり

泉忠法師塔

田記云洛東物  
山合山まに塔と建

とま今山寺れ地い今このま  
れ地なり今も塔れありあり  
だりま今と実忠い南都東大  
まの像あり三月堂乃法  
とてせ能り

地河孫塔

多部中保後  
の二所あり

これお羽若法師のる場一遍と  
人より中三世あり保後ま火  
築れ場して中世建に  
物一又也世三条乃西よ後と  
鳥林あり

明智坊塔

松の尾の山版  
まあり

他の中世のえいんに的坊と  
云物ありはち法とそひの

しつらて山後遊放まじの多指  
はあより通候多く懐とく  
ほひに流流氷に造らせし  
我死せしは山中華つと我妻と  
る像と刻とひえいざなむ  
まへー死はせとてし山門と誓  
公越前此の余射殺の時山門  
の徒射金に絶しとる半とてし山  
門と誓とくひの射殺の時日向  
先秀の成りしとて先秀の射傷  
り再承なりんかあやむきの  
松蔭和尙塔 天龍寺の中  
松院あり

松蔭和尙塔

和尙ハ此徳院の末縁師の告成  
の子あり告成の徳也三月廿  
四日任トて後長太師任  
とて別業乃後常勝と号し

松思もよと云けし有源氏に傳  
抄乃作者とわ松蔭と告成の  
たりに松蔭とて建立しあり也

大徳院浄土塔

あるま子此一代修験して  
院門あり此塔大徳院にあり今  
川氏定れ子ありて八十の頃  
ありま十一夜なり七十の歳中  
て寂と

辨親房塔

辨親房係智ハは徳と人の高  
亦にして俗性小松乃門有き空  
公此縁師の書判此師感の  
天龍寺あり

絶海中津塔

近世其松蔭ハ絶て絶海の係  
聖松院あり

并又遺書未招其文爲りあり

絶海八のあへて大祖皇帝には

凡そ延中を修むと幾と大祖和韻

とたまふ言を待申人のころあり

### 仲芳中正塔

相承り藤原  
頼ふあり

以仲明より入る楷書れども

施り弟々藤原院孫定院書

廣院三お國よまらるへと藤

原の孫号は人より始まる

### 一菴一麟塔

建仁寺乃内  
靈泉院あり

以仲明を國よ入て柳子原が文と

よむ乃ははとある

### 中山寺多宝塔

同寺妙法蓮華  
あり

以仲明日本記と書くありと

いとも報後の日大これありにら

てよりありのり

### 雪村支梅塔

同寺大慈寺  
あり

十八年ありてえ國よ入りて

由るるるるる趣子昂と文の塔

### 次石梁塔

同寺真宗寺  
あり

これ來朝の傳ありては院の用

祖なり世は傳ふ體法の解石

梁始く唱へしと云

### 吉山明光塔

東極寺あり  
南の院あり

世に非傳司と号し能く益のあり

つと高寺に益あり

### 虎岡味練塔

同寺海鏡院  
あり

二八二章新書佛心編釋義外

文不集在る全類の作者あり

忍極禮方塔

日寺曹僧院  
よわら

いんま書とくも法方寺院の  
類と寺院を修すは人の類と  
院と其師付ハ災災とすなり  
神此類とありて益ありとて

祖溪德源塔

建仁寺  
よわら

は偉大盤とありて六百巻と暗通せ

天與清原塔

日寺  
よわら

は傳明國へ二發入つたりと再  
後集と題す

日親上人塔

寺  
乃墓地よわら

日親ハハ法場の人なりと総の思

妙直も持大傳都日英上人  
仕へては心中ののかり日蓮文  
と味こも中と法慈とを法も  
よのりまきふ世せよと溜るま  
此上人のいなり

蓮如上人塔

和拜のま乃  
多色東の村よ

本教寺始ハつてなりとつり  
萬無和塔  
鎌倉寺  
よわら

心の方共智恩院共八世は徳  
くしてあり用基の祖師なり  
智恩院は徳の附山門の系也  
くめして用基の祖師なり  
まね又爾浮檀金をくして法陀  
觀勢の二と縁ハ縁堂造す

歌人塔

掃空人丸塚

澄古今れ丸塚  
寺の地より

一しといふもの舊記より云身二世昔  
初上人習くく松葉う若くわが  
四寺と海場へ極く上人を  
寺地と毎に法と一条河川わ  
水は流るるくわいて船のるる  
よ寺と建ちまふくわいふ  
人丸塚の茶ふるる塚く二か  
かり國寺と建立まふくわい  
ゆよわが云神の社在法中  
ありて今け法名く新玉丸  
新法書乃社現あり人丸の社  
繼てありまふくわい丸の塚  
西寺の塚地よりわい  
り今ひくく八坂の御法觀寺  
ふ人丸塚と云あり故せけ  
まふくわい

蟬丸塔

山科のえん  
堂れまへわ

和名水成塔

京極東山院  
乃所より

東山院いあり八分山川の東に  
也せはふくわい又京極  
心院より成部り教日奉あり

伝心通照塔

山科乃郷  
元智まへわ

傳心良對此宗真 仁的帝  
佛とわがわい出家い  
わわいとく世人まふくわい  
まふくわい天を悼  
てまふくわい通照本傳  
乃教あり加敷肥後まふくわい  
寺勅指傳より条まふくわい  
通照乃塔の中よりわわい  
て石灯籠まふくわい今に  
勸持法

慈徳和尚塔

名山安寺あり  
吉木の傍あり

ゆくゆくは流開はびてのり  
たろくしと文西のりしと大塔あり

教宗後成塔

東嶺寺乃月  
南の院あり

ありは院法性寺は院あり  
やそ日後成は母淨女尼乃尊全一  
一ふありは院は淨女尼の影痕  
今にあり

教宗定家塔

相承寺乃内  
普賢院あり

は院あり一定家乃の末裔公衆家  
の宅地なりしは院あり地となりぬ  
又同寺乃内徳孝院は定家乃  
塔あり腫とありあり人山塔と  
院方丈の傍は院中院の山の田

教宗隆盛塔

千本石像あり  
本堂の東

竹林の中はあり依りて田あり  
号と承隆と号あり

立原初重塔

五条等寺あり  
の西あり

少田寺に初重の塔あり寺あり乃  
中法ありてあり

立原安業塔

小塩寺輪院  
あり

業平の父母は塔は小塩と初重あり

け系式部塔

け系中白毫院  
あり

白毫院迎世寺千本石像あり  
飯沼の傍は梅と松あり今寺

塔ありせんま堂乃果うとん  
成花の塔あり寺仲は塔を  
式部り墓なりと云塔の墓に  
至徳二年丙寅八月廿二日  
河の文字あり志うれい  
ふふ河津建ふのり又万靈  
塔ありと云にまけ塔あり  
高好法師塔  
山双乃岳乃  
色二の島の麓  
世象寺にあり又園大曆に  
高好法師の塔ありと云  
墓は白雲回見山のり  
と云ありと

阿比師塔

西条道場令墓  
寺あり

蓮生法師塔

西条道場令墓  
にあり

宇都此ふはふと師  
てはふと又信坊  
世にあやまりて  
よと又信坊ハ  
和手集ふよ  
と云とらま  
せり又おや

高女塔

阿刀氏塔

千本蓮巻寺  
光の塔あり

八條禪尼塔

大通寺通照心院  
にあり

禪尼ハ防門乃内村雅親郷の娘

して原北宮御郷の宮にありて  
実約公薨逝去乃後尼とありて  
賞し号は地原家代と乃

宅地なり

### 小督高塔

東山信國寺にあり

小督ハ三會院（三會院）此の地あり  
三會院ハ小督とありてひらひ  
遷勅ノ令一七（一七）日陵と  
け下ノ築（築）て作り

### 後深成心書墓

傳之阿一磯  
法輪寺の

を色にありと後成は墓にま  
でたまひもまよとて築（築）て

さびしき松風とたふと墓の  
下にさくんの種あり（今も）

### 心公尼墓

海西集（海西集）特法  
よあり

海妙も貞氏乃の宮あり果深流  
と号す定利も氏乃軍乃  
母とありて上叔安分の女也

### 定海尼墓

右日院あり

赤橋氏乃むとありてその氏  
將軍此宮なり是は院とあり

### 花葉子墓

右日院あり

麻苑院（麻苑院）善海公の宮ありて  
口申大細と持光はれ息女なり

### 尾崎殿墓

大徳寺の中  
天理寺あり

織田信長公の息女ありてお平  
二郎信康公の宮あり信康  
公は尾崎の宮と号すはれ  
よ是法ありと云信康公自害  
の後系傳ありと云中此中門



の南より西へ行くと

### 天瑞寺墓

大徳寺天瑞寺  
ありあり

寺は長考言公の母公ありて世に  
あり大政不也は介考長一  
家の墓は寺あり

### 天壽院殿墓

东山智恵院  
ありあり

寺は長考言公の母あり

### 湖月居士墓

鏡子寺あり  
寺あり

尼公ハ考長考言公の正妃あり  
て世に考長政所友ありけり  
建立の大檀越あり

### 松の丸女墓

東松寺あり  
ありあり

考言公ハ世に始ハ  
使の玉氏回之明の

女傭子とせりえぬ生害の  
は伏見の津松乃丸女あり

考言公ハ世に松乃丸女と云  
後考言院自見感之入禪尼  
と号し

### 芳乃云院墓

大徳寺芳乃春  
院あり

考言公ハ世に相常此堂小  
して名徳院殿の考言建院  
建立此大檀越あり

### 廉納女墓

妙心寺廉納院  
ありあり

東照神君弟一の巾娘あり  
て松平下總守信昌の女あり

### 南明院殿墓

東福寺あり  
南明院あり

東照公の夫人ありて豊長考  
言公ハ巾息女あり伏見の殿

しては細形ありてこそあり

正法院殿墓 志合金無光  
ゆきのおあり

東照まゝの娘君ありて清神徳る  
守も最のまをり

良正院殿墓 本山智恩院  
中正院あり

東照まゝの娘君ありて他国より  
禮政のまをり

高田殿墓 海東由中村  
を光るあり

名徳相公の娘君ありて本平  
とほり入る百のまをり早天

廣徳院墓 本山智恩院  
あり九條礼政

通房公此を也父は松平とほり  
忠貞母はさる向の辰公あり

柴岳利生墓 本山智恩院  
あり秀次公の

中野公此を也父は松平とほり  
秀次公此を也父は松平とほり

西御殿墓 本山智恩院  
あり一葉

院后と号する大久保氏の息女に  
して三のり園より 東照宮に

侍りし今も大久保氏一家  
の墓はさるあり

宗源院殿墓 大佛寺海流  
又黒衣あり

名徳相公乃正妃ありて後井  
侍りし今も息女たり

相徳院殿墓 本山智恩院  
あり

尾州 亜相義直御所の所  
母公あり

清浄院 啟墓

本園の中堂  
の東の立

紀勳亞相水宮に乃きふで  
か後清正の息女あり

瑞珍寺 啟墓

東宮吉正寺  
よりあり

乃長考吉正の妹ありて秀  
乃母ありり是よりわたり瑞珍寺  
此尼公は下より葬所自末と号す

豊光院 啟墓

田中村吉正寺  
よりあり

九条乃房公の娘君之由乃  
孫女松平下中寺の宮女あり

桂昌院 啟墓

妙善寺 啟墓  
よりあり他田勝

陽善院 啟墓

西寺吉正寺  
よりあり

日神の御孫光之の女ありり  
薨去乃後光之孫院を惣公乃  
乳母あり

智恩院 啟墓

本山智恩院  
よりあり二内智

恩寺乃行尼ありて追善行寺  
公此息女也世より入はるる  
ついで尼院の代り又之を松洋  
花院より葬所

智泉院 啟墓

西寺吉正寺  
よりあり

して四辻此三たを成るの  
息女に結て大徳寺に遷す  
今法修院より葬所なるもの  
内昌松院より移るるは之を  
尼院代りて之に葬所

瑞光院 啟墓

西の系を園  
よりあり

寶慈庵院墓

右白院あり

春日の墓

妙心寺麟祥院  
あり

楠葉田近の墓ありて丹後寺

母あり

仁寂庵孝為の墓

山科市此山  
の墓あり

孝為長吉の孫尼中にて

報恩の墓ありけしものあり

今に金唄ありけしものあり

陽明院墓

後水尾院の乳母あり

親の墓

佛陀寺の内  
あり

長嘯子塔

あり

本の下肥はる入道二位の法下

此子ありて

後此少お侍後と号し

除の後とせしものあり

てと嘯子と政宗山

の墓に居る天住和教乃

くくれ名と天哉翁と

餘歳ありて薨

妙善院恒齋塔

相國寺善慶

有歎又と号し

真起れ

永喜塔

門人ありて世に

山崎宗鑑塔 大徳寺真珠庵

は人始に常徳院を向ふに童子  
からりて後世ののれに辨  
て佛塔を言はれりて  
を辨別の人ありて世人は志  
信あり

古田三三塔 大徳寺三三院

是世人志す古田儀部の子中  
ての事湯敷を道と考ふるを

細川三三塔 大徳寺三三院

其の塔は念に殊に越中其意  
興あり判別一に和向三三  
宗立と号し其意のいふ  
各人ごの事道と考ふるを  
乃た不はひに考ふるを

臺あり遺蹟として死後塔に  
まを今に法院と云ふ

細川幽入塔 右の院あり

名辨大史を考ふて天徳和  
平此乃秀徳の人あり恭  
院微宗云有と号す

将野元信塔 洛中柳原

本約益工此聖人右は眼を  
たり凡切舟家血脈は月  
つて出不蒙徳は眼を介を世  
坊中家此塔へてしてはあり

蓮臺寺の内  
後教社塔 石坂坊あり

和約自費を撥小柄木殿地  
知工造人ありて美徳の  
の武人ありて若廣院を教

は一鼓善教公の命に背て宰  
 狄の肉入時六月炎熱をん  
 かをくく獲心をもちもあふん  
 あつれを桃をツあつれを桃を  
 二日吉せつ社并に後六十を  
 歌刻まくとちあやうか  
 教を此とらふがふりも義  
 教を此と見ても徴無あふん  
 大まきも感しははゆか  
 月も桃のさひ常陸のまの民  
 人自吉の社の神亦くく一命  
 五つてくく

古野 紹鷗塔

建仁寺乃内

泉嘉博乃伝人なり天性茶道  
 とせし和音の乃とくくく  
 變乃は一雨居士は年次石塔院

八續田有系故此息男乃乃  
 の建まらるる乃乃乃乃乃乃  
 乃八と号し乃乃乃乃乃乃  
 紹鷗乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
 院乃塔と建乃乃乃乃乃乃

久菴 宗長塔

一あり

宗祇は唯れ乃乃乃乃乃乃  
 の連人世人の乃乃乃乃乃乃  
 徳乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
 銀一階乃乃乃乃乃乃乃乃  
 校乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
 今毛乃乃乃乃乃乃乃乃

宅間 法眼塔

一あり

法眼宅間乃乃乃乃乃乃乃乃  
 間は眼乃乃乃乃乃乃乃乃  
 大乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

時は不<sup>レ</sup>死して<sup>レ</sup>命<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>死<sup>レ</sup>せしむ  
神教とあるもの程あり後<sup>レ</sup>に  
は<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>塔と<sup>レ</sup>天<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>なり

安信<sup>（安の信）</sup>の塔 東福寺門前  
送<sup>（送）</sup>院竹林

乃内<sup>（乃）</sup>あり又<sup>（又）</sup>云<sup>（云）</sup>東川<sup>（東川）</sup>東<sup>（東）</sup>五<sup>（五）</sup>条<sup>（条）</sup>此<sup>（此）</sup>亦  
法<sup>（法）</sup>の<sup>（の）</sup>縁<sup>（縁）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>迎<sup>（迎）</sup>世<sup>（世）</sup>ま<sup>（ま）</sup>あ<sup>（あ）</sup>る<sup>（る）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>

千利<sup>（千利）</sup>休<sup>（休）</sup>墓 大徳寺の内  
聖<sup>（聖）</sup>光<sup>（光）</sup>院<sup>（院）</sup>あり

茶<sup>（茶）</sup>人<sup>（人）</sup>柳<sup>（柳）</sup>谷<sup>（谷）</sup>齊<sup>（齊）</sup>村<sup>（村）</sup>休<sup>（休）</sup>り<sup>（り）</sup>とい<sup>（い）</sup>は<sup>（は）</sup>し  
の<sup>（の）</sup>國<sup>（國）</sup>さ<sup>（さ）</sup>ひ<sup>（ひ）</sup>の<sup>（の）</sup>命<sup>（命）</sup>で<sup>（で）</sup>田<sup>（田）</sup>中<sup>（中）</sup>公<sup>（公）</sup>分<sup>（分）</sup>り  
は<sup>（は）</sup>祖<sup>（祖）</sup>娘<sup>（娘）</sup>主<sup>（主）</sup>所<sup>（所）</sup>家<sup>（家）</sup>に<sup>（に）</sup>仕<sup>（仕）</sup>へ<sup>（へ）</sup>て<sup>（て）</sup>日<sup>（日）</sup>明<sup>（明）</sup>大  
つ<sup>（つ）</sup>と<sup>（と）</sup>千<sup>（千）</sup>利<sup>（利）</sup>休<sup>（休）</sup>と<sup>（と）</sup>号<sup>（号）</sup>ひ<sup>（ひ）</sup>て<sup>（て）</sup>未<sup>（未）</sup>練<sup>（練）</sup>塔<sup>（塔）</sup>千  
乃<sup>（乃）</sup>字<sup>（字）</sup>と<sup>（と）</sup>林<sup>（林）</sup>号<sup>（号）</sup>り<sup>（り）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>死<sup>（死）</sup>後<sup>（後）</sup>是<sup>（是）</sup>易<sup>（易）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>

二<sup>（二）</sup>条<sup>（条）</sup>院<sup>（院）</sup>の<sup>（の）</sup>茂<sup>（茂）</sup>船<sup>（船）</sup>是<sup>（是）</sup>山<sup>（山）</sup>の<sup>（の）</sup>林<sup>（林）</sup>際<sup>（際）</sup>にあ  
り<sup>（り）</sup>陵<sup>（陵）</sup>乃<sup>（乃）</sup>上<sup>（上）</sup>に<sup>（に）</sup>其<sup>（其）</sup>ま<sup>（ま）</sup>の<sup>（の）</sup>石<sup>（石）</sup>塔<sup>（塔）</sup>あ<sup>（あ）</sup>り  
は<sup>（は）</sup>千<sup>（千）</sup>利<sup>（利）</sup>休<sup>（休）</sup>と<sup>（と）</sup>九<sup>（九）</sup>輪<sup>（輪）</sup>と<sup>（と）</sup>号<sup>（号）</sup>し<sup>（し）</sup>て<sup>（て）</sup>自  
己<sup>（己）</sup>の<sup>（の）</sup>塔<sup>（塔）</sup>と<sup>（と）</sup>今<sup>（今）</sup>は<sup>（は）</sup>院<sup>（院）</sup>に<sup>（に）</sup>あり<sup>（り）</sup>

休<sup>（休）</sup>の<sup>（の）</sup>洗<sup>（洗）</sup>淨<sup>（淨）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>あり

茶<sup>（茶）</sup>人<sup>（人）</sup>練<sup>（練）</sup>光<sup>（光）</sup>墳 大徳寺の内  
東<sup>（東）</sup>練<sup>（練）</sup>谷<sup>（谷）</sup>あり

練<sup>（練）</sup>光<sup>（光）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>南<sup>（南）</sup>都<sup>（都）</sup>林<sup>（林）</sup>女<sup>（女）</sup>寺<sup>（寺）</sup>持<sup>（持）</sup>統  
なる<sup>（る）</sup>と<sup>（と）</sup>天<sup>（天）</sup>性<sup>（性）</sup>宗<sup>（宗）</sup>乃<sup>（乃）</sup>後<sup>（後）</sup>造<sup>（造）</sup>り<sup>（り）</sup>なる<sup>（る）</sup>  
つ<sup>（つ）</sup>と<sup>（と）</sup>号<sup>（号）</sup>して<sup>（て）</sup>慈<sup>（慈）</sup>照<sup>（照）</sup>院<sup>（院）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>あり

ま<sup>（ま）</sup>あ<sup>（あ）</sup>る<sup>（る）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>あり<sup>（り）</sup>て<sup>（て）</sup>は<sup>（は）</sup>西<sup>（西）</sup>園<sup>（園）</sup>に<sup>（に）</sup>あり<sup>（り）</sup>  
昨<sup>（昨）</sup>六<sup>（六）</sup>条<sup>（条）</sup>の<sup>（の）</sup>茶<sup>（茶）</sup>人<sup>（人）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>あり<sup>（り）</sup>  
日<sup>（日）</sup>り<sup>（り）</sup>の<sup>（の）</sup>美<sup>（美）</sup>政<sup>（政）</sup>公<sup>（公）</sup>練<sup>（練）</sup>光<sup>（光）</sup>の<sup>（の）</sup>宅<sup>（宅）</sup>（<sup>（所）</sup>）<sup>（所）</sup>に<sup>（に）</sup>あり<sup>（り）</sup>  
沖<sup>（沖）</sup>の<sup>（の）</sup>あり<sup>（り）</sup>と<sup>（と）</sup>練<sup>（練）</sup>光<sup>（光）</sup>の<sup>（の）</sup>花<sup>（花）</sup>の<sup>（の）</sup>  
事<sup>（事）</sup>と<sup>（と）</sup>相<sup>（相）</sup>の<sup>（の）</sup>は<sup>（は）</sup>字<sup>（字）</sup>ひ<sup>（ひ）</sup>たり<sup>（り）</sup>

曾<sup>（曾）</sup>我<sup>（我）</sup>式<sup>（式）</sup>林<sup>（林）</sup>墳 大日庵あり

世<sup>（世）</sup>人<sup>（人）</sup>之<sup>（之）</sup>去<sup>（去）</sup>人<sup>（人）</sup>あり<sup>（り）</sup>て<sup>（て）</sup>世<sup>（世）</sup>茶<sup>（茶）</sup>人<sup>（人）</sup>練<sup>（練）</sup>光<sup>（光）</sup>の<sup>（の）</sup>  
つ<sup>（つ）</sup>と<sup>（と）</sup>後<sup>（後）</sup>入<sup>（入）</sup>道<sup>（道）</sup>して<sup>（て）</sup>蛇<sup>（蛇）</sup>足<sup>（足）</sup>野<sup>（野）</sup>と<sup>（と）</sup>号<sup>（号）</sup>す<sup>（す）</sup>  
と<sup>（と）</sup>号<sup>（号）</sup>る<sup>（る）</sup>又<sup>（又）</sup>益<sup>（益）</sup>工<sup>（工）</sup>と<sup>（と）</sup>号<sup>（号）</sup>る<sup>（る）</sup>あり<sup>（り）</sup>後<sup>（後）</sup>に<sup>（に）</sup>  
一<sup>（一）</sup>休<sup>（休）</sup>水<sup>（水）</sup>尚<sup>（尚）</sup>り<sup>（り）</sup>と<sup>（と）</sup>号<sup>（号）</sup>す<sup>（す）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>あり<sup>（り）</sup>  
依<sup>（依）</sup>と<sup>（と）</sup>号<sup>（号）</sup>す<sup>（す）</sup>とい<sup>（い）</sup>は<sup>（は）</sup>る<sup>（る）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>あり<sup>（り）</sup>

世<sup>（世）</sup>人<sup>（人）</sup>之<sup>（之）</sup>去<sup>（去）</sup>人<sup>（人）</sup>あり<sup>（り）</sup>て<sup>（て）</sup>世<sup>（世）</sup>茶<sup>（茶）</sup>人<sup>（人）</sup>練<sup>（練）</sup>光<sup>（光）</sup>の<sup>（の）</sup>  
つ<sup>（つ）</sup>と<sup>（と）</sup>後<sup>（後）</sup>入<sup>（入）</sup>道<sup>（道）</sup>して<sup>（て）</sup>蛇<sup>（蛇）</sup>足<sup>（足）</sup>野<sup>（野）</sup>と<sup>（と）</sup>号<sup>（号）</sup>す<sup>（す）</sup>  
と<sup>（と）</sup>号<sup>（号）</sup>る<sup>（る）</sup>又<sup>（又）</sup>益<sup>（益）</sup>工<sup>（工）</sup>と<sup>（と）</sup>号<sup>（号）</sup>る<sup>（る）</sup>あり<sup>（り）</sup>後<sup>（後）</sup>に<sup>（に）</sup>  
一<sup>（一）</sup>休<sup>（休）</sup>水<sup>（水）</sup>尚<sup>（尚）</sup>り<sup>（り）</sup>と<sup>（と）</sup>号<sup>（号）</sup>す<sup>（す）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>あり<sup>（り）</sup>  
依<sup>（依）</sup>と<sup>（と）</sup>号<sup>（号）</sup>す<sup>（す）</sup>とい<sup>（い）</sup>は<sup>（は）</sup>る<sup>（る）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>あり<sup>（り）</sup>

世<sup>（世）</sup>人<sup>（人）</sup>之<sup>（之）</sup>去<sup>（去）</sup>人<sup>（人）</sup>あり<sup>（り）</sup>て<sup>（て）</sup>世<sup>（世）</sup>茶<sup>（茶）</sup>人<sup>（人）</sup>練<sup>（練）</sup>光<sup>（光）</sup>の<sup>（の）</sup>  
つ<sup>（つ）</sup>と<sup>（と）</sup>後<sup>（後）</sup>入<sup>（入）</sup>道<sup>（道）</sup>して<sup>（て）</sup>蛇<sup>（蛇）</sup>足<sup>（足）</sup>野<sup>（野）</sup>と<sup>（と）</sup>号<sup>（号）</sup>す<sup>（す）</sup>  
と<sup>（と）</sup>号<sup>（号）</sup>る<sup>（る）</sup>又<sup>（又）</sup>益<sup>（益）</sup>工<sup>（工）</sup>と<sup>（と）</sup>号<sup>（号）</sup>る<sup>（る）</sup>あり<sup>（り）</sup>後<sup>（後）</sup>に<sup>（に）</sup>  
一<sup>（一）</sup>休<sup>（休）</sup>水<sup>（水）</sup>尚<sup>（尚）</sup>り<sup>（り）</sup>と<sup>（と）</sup>号<sup>（号）</sup>す<sup>（す）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>あり<sup>（り）</sup>  
依<sup>（依）</sup>と<sup>（と）</sup>号<sup>（号）</sup>す<sup>（す）</sup>とい<sup>（い）</sup>は<sup>（は）</sup>る<sup>（る）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>あり<sup>（り）</sup>

世<sup>（世）</sup>人<sup>（人）</sup>之<sup>（之）</sup>去<sup>（去）</sup>人<sup>（人）</sup>あり<sup>（り）</sup>て<sup>（て）</sup>世<sup>（世）</sup>茶<sup>（茶）</sup>人<sup>（人）</sup>練<sup>（練）</sup>光<sup>（光）</sup>の<sup>（の）</sup>  
つ<sup>（つ）</sup>と<sup>（と）</sup>後<sup>（後）</sup>入<sup>（入）</sup>道<sup>（道）</sup>して<sup>（て）</sup>蛇<sup>（蛇）</sup>足<sup>（足）</sup>野<sup>（野）</sup>と<sup>（と）</sup>号<sup>（号）</sup>す<sup>（す）</sup>  
と<sup>（と）</sup>号<sup>（号）</sup>る<sup>（る）</sup>又<sup>（又）</sup>益<sup>（益）</sup>工<sup>（工）</sup>と<sup>（と）</sup>号<sup>（号）</sup>る<sup>（る）</sup>あり<sup>（り）</sup>後<sup>（後）</sup>に<sup>（に）</sup>  
一<sup>（一）</sup>休<sup>（休）</sup>水<sup>（水）</sup>尚<sup>（尚）</sup>り<sup>（り）</sup>と<sup>（と）</sup>号<sup>（号）</sup>す<sup>（す）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>あり<sup>（り）</sup>  
依<sup>（依）</sup>と<sup>（と）</sup>号<sup>（号）</sup>す<sup>（す）</sup>とい<sup>（い）</sup>は<sup>（は）</sup>る<sup>（る）</sup>と<sup>（と）</sup>云<sup>（云）</sup>あり<sup>（り）</sup>

の益懽を多ありて未嘗今

飛澤乃國令森れ家あり

### 大森宗重墓

蓮華寺の西  
石塔あり

け人尺八此巧ありてそ世

ありてあり

### 里村紹巳墳

大徳寺の受院  
あり

運舟乃世道人世人ありて

ありてあり

### 中井春蘭軒塔

大徳寺の東  
あり

三聖堂隆きそ号を入明の管小

益徳あり古法眼え信乃善し

して惟高妙安の賛ありい

外中井か法下交竹院通

仙院の墓あり通仙院八幡庵

休庵乃庵まれ父ありて

### 野間玄孫墓

野間乃乃乃乃  
あり

和朝殿も業れ世道人也嘉郎

院法中じ号あり

### 武回道基墳

右日所出の山  
あり

世人ありて世道人也乃乃乃乃

備徳院法下と号あり

### 東井玄朝墳

大徳寺の東  
あり

世人ありて世道人也乃乃乃乃

### 玄法法下墓

存ありてあり  
普明庵あり

ありて啓迪院と号ありてあり

慶長天皇御院墓けあり







親世宗九郎墓

右に院あり

鎌田宗治と号す

吉田意墳

源孫大井川  
乃西員山の小

千光ちにありや意は夫井川孫  
て殿令用とす人なり息也  
墓も日くよりは人文字  
はよき遊遊此人也

中岡坊墳

系極寂人  
あり

園墓の巧みあり後田信忠  
の対はる中岡坊乃孫  
少れ才子宰相園墓  
つ一日中米よるて  
又うささけ東氏ら  
石れおれとりあり  
坊乃後孫孫

性困甚よき世に人  
別墓せしめ候とあり  
氏よお清と云

宗桂墓

保来寶塔  
はる家あり

お墓此の寺に人あり塔乃  
石と桂馬此形像と云

石川大山墓

一葉の北南  
瀧山の上あり

丈ありりく三にの産あり  
幕下につく人衆の役  
登して軍切あり  
はる中  
石山の下一葉ち村小  
ちるひはふおら  
るあり平生待文と  
十有余ありて卒

ほしとくしと

### 貞徳天皇墓

名海実相寺  
あり

名海丸と号し一徳猪の名あり  
世人もあまのくちをたたり

### 新塚

### 七帝陵

伏見北南平河  
あり七陵今根上

ありそのの七帝と云ふれと  
しつむれ陵くさ事ふ詳は  
外はまこと山陵ふくはあり

### 大塚小塚

この面今里村の  
東田細の中あり

今をそと見ると大塚小塚と  
此陵ありて小塚ハれ車塚と  
はぐしつむれ陵くさ事りま  
ひりつかり

### 王塚

海小みぞろ地  
南にあり二層と

いづれ陵くさ事りま  
むくさ西より東に流あり  
王塚繩ふと云又谷地地  
院北門前王塚と云あり  
是又二代天皇の車塚あり

### 車塚

仁和寺樓門の西  
南にあり

石の者ハ車塚の塚ありと云  
あつれいれくさ事りま  
大塚海生まらにありは  
くして一代主と此陵と築は  
まも西の津車と細くあり  
海ま塚と云るあり

### 大塚

子代北右の南  
にあり

は塚ありひのむか塚と云る



はきり河内村は淨蓮寺あり  
これ勸修寺ありと墳墓れ地  
かり箱塚いさめてこれ勸修  
寺の夜の巡狩りれ中勿言  
遠野口の坂ありとやまらば

### 福塚

百方遍のいかにあり  
案るに言んつる家

此一代五条大納言國徳に於  
てあることとあきあして五條の  
内裏と遠より又治承に  
て平法盛とこれとてめはし  
て都とけのふ極ありと極し  
たきり河内國徳の里川  
と造りし心あり時ふは塚を  
必塚の塚なりとて又貴れ  
人ありとあり福塚と云下

### 一竹塚

保平歌之妻記に云  
林草裏に怪あり

河内平法盛大納言射ころ  
今少しはきりとて下むるお  
どろきして法盛の神の内  
入とて見らるに大ききたつ  
おとと他とて是に上つて南  
此其の竹ととりて角と  
竹の筒れ中に入清水を  
曇らうづむとて一竹塚と  
す今は雨不分明

### 如法塚

八幡山せまがり坂の  
中なりとあり

是竹塚納る所の塚なりと俗  
に竹塚と云かり

### 経塚

さう名真をかり  
山とにあり

此は道え和尚堂ありと伝  
りあり火災ありとありと  
るえ和尚堂と編しは下に

納しちるとも類するりよとぞ

勅使塚

吉田山中を日乃  
社のまへにあり

いみへ新幣

勅使のなまはる

ふたりのいまたにせの櫃とゆせり

高塚

東山七葉音院と  
若菜城道のまへ

狐塚

東の西のたにあり  
は不葬場ありて

京師五墓所の内之五墓宗

多々部中中山家後川系

高乃林狐塚これなり又流

東寺四ツ塚千本中山系

勝川系区寺こしれありと

延年といひへ多々部にあり

今よ延年ひるの過ぎし号も

京師三寺備後を五終

